

# DEBUT 首長

茨城県石岡市長 今泉 文彦氏

## 昭和ロマン店舗に再び脚光 損壊市役所から退去前倒し

**石岡市** 茨城県のほぼ中央に位置し、1300年もの昔から常陸国の国府がおかれた。茨城県の名称は石岡市の「茨城」が発祥とも言われる。

——「市政の刷新」を訴えた昨年10月の市長選は2度目の挑戦。前回約2000票差で敗れた現職を約1400票差で雪辱した。

JR石岡駅東口の鹿島鉄道跡地などの土地購入、屋台村計画、有名パティシエによる石岡スイーツ事業など、いずれも効果を上げられず税金の無駄遣いになっている。約5億円を投じた鹿島鉄道跡地は利用計画もないまま放置されているし、屋台村は出店募集に1店しか名乗りを上げず、頓挫した。スイーツ事業は悪くはないが、お金がかかりすぎた。市政を刷新するのは今しかない。

さらに残念なのは、これらがいずれも駅周辺の整備にすぎず、中心市街地の活性化につながっていないことだ。石岡市は常陸国の国府が置かれ、国分寺、国分尼寺など歴史的遺産が駅西口

から徒歩10分あまりの距離に集中している。昭和ロマンを感じさせる店舗や蔵なども健在だ。私が市の企画課長だった2001年に「第1次市街地活性化プラン」を策定し、この地域の一角に「まちかど情報センター」も設置した。もう一度、ここにスポットを当て、本当の意味の中心市街地の活性化を進める。

——人口減にはどう対処するか。

子育て支援や企業誘致など、人口減に歯止めをかけ、増やしていく努力は続ける。ただ、一方で、人口減少社会を受け入れ、どう生きていくかを探ることも必要ではないか。人口が減れば活気が薄れることは否定しないが、心のあり方、暮らし方で変わってくることもある。

明治の初期、石岡は水戸に次ぐ県内第2の商都だった。人口は1万2000人あまりだったが、活気がなかったわけではなく、むしろ繁栄していた。要は人口だけが活気や繁栄を計る尺度ではないということだ。

——東日本大震災で損壊した市役所本庁舎から昨年中に



いまいずみ・ふみひこ 1952年茨城県石岡市生まれ。75年早稲田大学文学部中退、石岡市役所に。企画課長、地域計画課長などを経て、2009年に市長室長を辞め市長選に出馬し落選。10年から私立幼稚園園長を務め、昨年10月に市長に。61歳。

ほぼ全面退去した。

初登庁後の会見で、13年中に退去すると表明した。それまで損壊の激しかった3、4階を使用禁止とし、1、2階部分を使っていた。従来は新たにプレハブ庁舎を建設し、14年度に退去する方針だったが、13年7月に震災度調査と耐震結果で、3階部分が「中破」「崩壊・倒壊の可能性が高く使用禁止」と判定された。この結果を踏まえ、市民や職員の安全を最優先し、移転時期を大幅に早めることにした。現在は1階の突き出した部分のみ使っているが、それも5月には移転する。

新庁舎は15年には着工したい。スピード感を持って当たりたい。

急がなければならない重要事業や課題は山積しており、税金の無駄遣いは許されない。任期中の市長報酬を20%カットし、危機感を市民と共有したい。

(聞き手は

水戸支局長 鈴木 豊之)